

令和7年度(第71回)齋藤茂吉文化賞受賞者の決定について

9月17日(水)午前10時30分から県庁内において齋藤茂吉文化賞委員会を開催し、令和7年度(第71回)齋藤茂吉文化賞の受賞者を以下のとおり決定しました。

受賞者

(敬称略、五十音順)

受賞者 (団体)名	年齢	住所 所在地	功 績 概 要	分野
あおば みつる 青葉 (宮本 ちづる 千鶴)	78	山形市	山形県芸術文化協会理事、山形県洋舞協会副会長 等 ・宝塚歌劇団に入団し、山形県出身者として初のタカラジェンヌとなり、数多くの作品に出演。 ・昭和56年、山形市に「青葉みつるダンシングスタジオ」を設立し、長年に渡りジャズダンスやバレエの指導など、後進の育成に尽力。 ・ベにばな国体では開会閉会プログラムの演出・振付、演技指導を務めたほか、国文祭山形2003においても開会式におけるオリジナルダンスの指導にあたるなど、洋舞文化の振興、発展に貢献。	舞踊 (洋舞)
あべ ひろゆき 阿部 博行	77	鶴岡市	鶴岡市史編纂委員、「真壁仁・野の文化賞のあゆみ」編纂委員 ・高校教諭として勤務する傍ら、近現代史を研究し、庄内出身の近現代史に名を刻む著名人の人物評伝を執筆。長期にわたって真摯に調査した各評伝は高く評価されている。 ・鶴岡市史編纂委員等を務め、長年に渡り鶴岡市をはじめ、庄内地域の地域史・郷土史研究に寄与している。	人文科学 (郷土史)
みうら つねき 三浦 恒祺	95	鶴岡市	白鷺社常任委員(元委員長)、光陽会名誉委員 ・15歳で広島にて被爆。その後、油彩画の制作に励み、積極的に作品を発表。95歳を迎えた現在も精力的に活動している。 ・美術団体白鷺社の委員長を務め、絵画教室や美術団体での活動を通して後進の育成に尽力。 ・自身の被爆体験を元に、平和の尊さを説く講話活動の継続など世界平和への希求活動と郷土愛溢れる作品を描き伝え続けている。	美術 (絵画)

※ 受賞者の生年月日、電話番号、住所(地番)、写真の電子データが必要な場合は、事務局までお問い合わせください。

(参考)

1 贈呈式（山形県産業賞と合同で開催）

日時：令和7年11月3日（月）午前10時30分から

場所：山形県郷土館「文翔館」（山形市旅籠町）

2 齋藤茂吉文化賞について

齋藤茂吉文化賞は、茂吉翁の偉業を偲び昭和30年に創設されたもので、芸術又は学術の面で功績があり、本県文化の向上に寄与された個人又は団体を顕彰しているものです。

選考は、学識経験者等で構成する齋藤茂吉文化賞委員会（委員長：知事）が行い、広く県内各方面から推薦を受けた方々の中から受賞者（個人又は団体）を決定します。

3 これまでの受賞者（第1～70回）

① 芸術部門	文 学	個人	47	団体	2
	美 術		41		11
	演 劇		13		7
	音 楽		17		5
	そ の 他		17		5
② 学術部門	人文科学		39		5
	自然科学		16		1
合 計			190		36

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【問い合わせ先】

県民文化芸術振興課 課長補佐 山口

電話：023-630-2306

広報監 観光文化スポーツ部次長 丸子

令和7年度（第71回）齋藤茂吉文化賞受賞者



青葉 みつる（宮本 千鶴）氏



阿部 博行氏



三浦 恒祺氏

令和 7 年度(第71 回)齋藤茂吉文化賞受賞者 功 績 概 要 書

氏 名	あおば 青葉 みつる (宮本 千鶴)
年 齢	7 8 歳
住 所	山形市
部 門	舞踊 (洋舞)
具体的功績 - 昭和 41 年に宝塚歌劇団に入団、山形県出身として初のタカラジェンヌとなり、昭和 49 年 5 月の卒業まで雪組に所属し、男役として数多くの作品に出演。卒業後はニューヨークに短期留学し、昭和 56 年に山形市へ「青葉みつるダンシングスタジオ」を設立。ジャズダンスやバレエの指導を行い、後進の育成に尽力。 - 平成 4 年のべにばな国体では式典専門委員を務め、開会閉会プログラムの演出・振付・演技指導に尽力、また平成 15 年の「国民文化祭やまがた 2003」においては県民からの公募により構成された「国文祭やまがたダンシングチーム“みずたま”」によるオリジナルダンスの演出・振付・演技指導にあたり、開会式のオープニングパレードを華やかに彩り、新たな文化の発信に寄与した。 - 本県におけるジャズダンスなどの洋舞文化の中心的存在として尽力するとともに、花笠まつりなどの各種イベントに出演するなど、山形のジャズダンスの一人者として、山形県の洋舞文化の振興、発展に貢献している。	
備 考 - 現在の役職 山形県芸術文化協会理事 山形市芸術文化協会理事 山形県洋舞協会副会長 - 主な受賞歴 平成 27 年 山形県教育功労者表彰	

令和7年度(第71回)齋藤茂吉文化賞受賞者 功 績 概 要 書

氏 名	あ べ ひろゆき 阿部 博行
年 齢	77歳
住 所	鶴岡市
部 門	人文科学（郷土史）
具体的功績 1 高校教諭として勤務する傍ら、地域の文化や歴史を研究し、中でも酒田市出身の数学者「小倉金之助」、写真家「土門拳」、鶴岡市出身の軍人「石原莞爾」、無教会派キリスト教の伝道師「黒崎幸吉」等の庄内出身の近現代史に名を刻む人物評伝は、は高く評価されている。 長期にわたって真摯に調査した各評伝はいずれも傑出した労作であり、「真壁仁・野の文化賞」や「高山樗牛賞」を受賞している。 2 特筆すべきは評伝の執筆姿勢であり、対象人物に関する関係資料を可能な限りすべて収集・取材・分析したうえで全体を時系列に構成するという徹底した精査ぶりと、時代的潮流に流されることや個別の歴史観に閉ざされることなく、あくまでも開かれた客観的な全体像の中に人物を位置付けようと努力する冷静な視点は特筆すべきものである。 3 県立高校教諭として勤務した後、鶴岡市史編纂委員、山形県地域史研究協議会常任理事を務め、長年にわたり地域史・郷土史に関する調査研究に携わっている。 4 主な出版物 『小倉金之助生涯とその時代』（平成4年） 『土門拳生涯とその時代』（平成9年） 『石原莞爾生涯とその時代』（平成17年） 『山形県立庄内農学校四十七年史』（平成21年） 『黒崎幸吉生涯とその時代』（平成23年） 等	
備 考 1 現在の役職 鶴岡市史編纂委員 「真壁仁・野の文化賞のあゆみ」編纂委員 2 主な受賞歴 平成4年 第8回 真壁仁・野の文化賞 平成9年 第40回 高山樗牛賞	

令和7年度(第71回)齋藤茂吉文化賞受賞者 功 績 概 要 書

氏 名	みうら つねき 三浦 恒祺
生年月日(年齢)	95歳
住 所	鶴岡市
部 門	美術(絵画)
具体的功績 - 昭和20年、15歳の時に広島で被爆。両親の故郷である鶴岡に移転後は、油彩画の制作に励み積極的に作品を発表。95歳になる現在も精力的に創作活動を行っている。 - 昭和39～44年、平成27～令和元年の2度に渡り、白甕社委員長を務める。絵画教室や美術団体での活動により後進の育成に尽力。 - 絵画の制作テーマは「原爆の強烈な惨禍を伝え、命の愛しさと慈悲を語り継ぐこと」、「ふるさと庄内の自然美を心象風景として描くこと」が挙げられる。特に広島原爆ドーム隣の「おりづるタワー」内には、氏の作品を原画とする壁画「光に向かって這ってゆけ」が展示されており、生きとし生けるものへの信頼と再生への熱いメッセージをのせ、多くの人々に鑑賞されている。 - 自身の被爆体験を元に、平和の尊さを説く講話活動を続けるなど世界平和希求の活動と郷土愛溢れる作品群を描き、伝え続けている。	
備 考 - 現在の役職 白甕社常任委員(元委員長) 光陽会名誉委員 - 主な受賞歴 昭和37年 モダンアート展奨励賞 昭和63年 光陽会賞 平成3年 光陽展文部大臣奨励賞 平成4年 光陽展40回記念大賞 平成26年 鶴岡市芸術文化協会功労賞表彰	